

平成 23 年 5 月 27 日現在

機関番号：14301  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19529002  
 研究課題名（和文） ポスト社会主義ユーラシア牧畜諸地域の動態にみる多様性と普遍性  
 一人とモノの関係より  
 研究課題名（英文） Diversity and generality on dynamic states of pastoral regions in  
 post-socialist countries in Eurasia  
 研究代表者  
 風戸 真理（KAZATO MARI）  
 京都大学・地域研究統合情報センター・研究員  
 研究者番号：90452292

## 研究成果の概要（和文）：

ポスト社会主義の牧畜地域におけるモノの利用と継承のあり方を明らかにするため、銀製品の利用と継承とフェルト製作について調査研究をおこなった。その結果、モノの消費をめぐる記憶という付加価値がつくことがわかった。生産技術については、技術は道具でなく身体技法として伝わる部分が多量であり、社会主義期にも身体技法が伝わる余地があったことがわかった。今後の課題としてポスト社会主義地域の多様性の研究が残された。

## 研究成果の概要（英文）：

I investigated how Mongolian pastoralists used silver goods and how they made large felt for walls of their yurts, for clarifying how things has been used and succeeded in pastoral regions in post-socialist countries. As a result, on the process of consuming things, memories are added as their values. Regarding processing technique, it has been succeeded as technique of body more than technique of tool using and the technique of body should has been succeeded even through socialist era. It needs further investigation to clarify the diversity among post-socialist regions.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	900,000	0	900,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3200,000	690,000	3,890,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：基盤（C）

キーワード：ポスト社会主義、ユーラシア、牧畜、銀製品

## 1. 研究開始当初の背景

## (1) 研究の背景

申請者はこれまでモンゴル国の牧畜社会において、牧民の最も重要な財である

貴金属と家畜に着目し、マクロな政治経済変化のもとでのその生産と利用のあり方と、これらの財に付与される経済的な

価値と文化的な意味を分析することで、モンゴル社会の動態を解明してきた。貴金属に関しては、モンゴルでは国家体制が変わる度に貨幣制度が変化したが、社会主義期以前から今日に至るまで一貫して、銀が貯蓄財や装飾品として重用され、これは世代を超えて継承されてきた。一方、家畜についてはモンゴル国内の4地域を比較したところ、社会主義期には共通する生産・流通の枠組みが与えられていたが、具体的な家畜管理の技術には相違がみられ、移行期には市場経済の浸透速度の差異と関連して家畜に対する意味づけに地域差がみられた。さらに、モンゴル国と隣接する3つの地域（ロシアのブリヤート共和国、中国の内モン、新疆）に暮らすモンゴル系の人びとの過去と現在の牧畜状況について検討した。その結果、20世紀初頭にはこれら地域とモンゴルの間では季節的な遊動の一環としての往来があり、生活様式が共有されていた。だがその後、国境が確定し各国家独自の政策のもとで変化が進み、モンゴル国以外では牧民は定住化し、家畜の商品化が強化されたことがわかった。そこで申請者は、ポスト社会主義諸国の牧畜諸社会における経験の差異と共通性をシステムティックに比較検討する研究計画を着想した。

## (2) 社会主義／ポスト社会主義社会に関する先行研究

従来の、社会主義／ポスト社会主義社会を対象とした研究は、時代によって2つに分けられる。一つめは冷戦時代になされた主に政治経済制度に関する研究である。これらの研究は、人類学者C. Hann[2002]により、社会主義社会を植民地人類学における「未開の他者」と同様な「他者」として構築し、その経験を恐怖に満ちたものとして一枚岩的に表象してきたと批判されている。二つめは、1980年代末以降の社会主義内部の変化により多くの研究者がフィールドや文献へのアクセスが可能になったことで始まった、微視的な社会・文化研究である。たとえば、生業技術や農牧村の経済社会構造の変化に焦

点をあててローカルな人びとにとっての社会主義経験を浮かび上がらせた人類学的研究 [Humphrey1998, 高倉2000, 風戸2006]、村落の変化を追った地域史的研究 [Kanefff2003]、ライフヒストリーの手法で個人の視点から社会主義経験を再構成する試み [小長谷2003] がおこなわれた。これらは、一つの小社会または国家の特徴を明らかにすることにより帰納的に社会主義／ポスト社会主義に関する考察を深めることに成功した。

## (3) 本研究計画の着眼点

ポスト社会主義諸国を横断的に比較する研究は、政治経済制度の比較にとどまり、その下で生きる人びとにとっての生活のリアリティーは等閑視される傾向にあった。これに対して申請者は、ローカルな視点からの社会理解を基盤としたポスト社会主義諸国の比較研究を実施し、ポスト社会主義地域の包括的な理解を目指す。本計画を単なる制度比較に終わらせないためには、申請者がこれまでモンゴルでおこなってきた生業戦略に焦点を当てた分析手法を用い、当事者が日常生活をどのように組織し理解しているかを解明することで解決できる。

## 2. 研究の目的

ユーラシアのポスト社会主義諸国は、20世紀中に2度の体制変化、すなわち「社会主義」化と社会主義から民主化・市場経済化への「移行」を経験した。本研究では、ポスト社会主義ユーラシアの牧畜諸地域における財とその所有をめぐる人びとの経験と認識について検討する。そのことを通して、ローカルな視点から各地域の動態を描き出すと共に、社会主義という制度が異なる国家や地域にどのような普遍的な影響を与え、また逆に、個別の地域では社会主義の理念がいかにかローカライズされて受け入れられたのかを明らかにすることを目的とする。

ポスト社会主義の諸国家におけるマクロな政治経済変化が、個別地域の社会・経済・文化的な文脈のなかで、人とモノの関係、すなわち財とその所有をめぐる人びとの

経験と認識に与えた影響を明らかにするため、第一に、同じモノに注目して複数の国家を比較する。第二に、一つの国内での異なるモノの扱われ方を比較する。モノとしては、これまでに申請者が研究をすすめてきた貴金属と家畜をとりあげる。対象地域は、これまでに申請者が研究を実施してきたモンゴル系の人びとが暮らす地域（モンゴル国、ロシアのシベリア地域、中国の内モンゴ、新疆）から、チュルク系の人びとが暮らす中央アジア（カザフスタン、ウズベキスタンなど）に拡大する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 平成 19 年度

ポスト社会主義ユーラシアの遊動生活者にとっての財とその所有をめぐる経験と認識について、貴金属と家畜に焦点をあてて検討する研究計画の初年度に、モンゴル国の金銀鍛冶師に関する本格的なフィールドワーク、カザフスタンと中国内蒙古自治区での予備調査、これら調査で得られた資料分析・整理のための研究活動を実施した。

その詳細は以下のとおりである。8-9 月、定住化政策の浸透したカザフスタンの農牧地域にて、牧畜実践に関する現地調査をおこない（総合地球環境学研究所の研究プロジェクト予算による）、首都アルマアタでカザフの銀製品に関する文献資料を収集した。また社会主義の痕跡を映像に記録した。これらの調査成果を地球研で口頭発表、地域研ニューズレターに執筆するにあたり、中央アジア現代史、映像技術、映像人類学に関する文献を収集した。

11 月には中国内蒙古の区都フフホト市とモンゴル国の首都ウランバートル市で 1 カ月のフィールドワークをおこなった。フフホトでは都市化、漢化の影響でモンゴルの銀製品についての知識が薄れ、モンゴル国からの出稼ぎ者が生産に従事していた。ウランバートルではチベット寺院の医師兼僧侶から貴金

属と身体の関係について聞き取りをした。金銀装飾品店が集中する地区では約 30 の小売商の仕入れ傾向を調査した。近年の傾向として、装飾品のデザインと仕入れ国の多様化、国内産品割合の減少、小売商間の品揃えの均一化がみられた。また 6 名の鍛冶師から技術の習得過程を聞き込み、うち 1 人が指輪を完成する行程を映像に記録した。その成果は北方ユーラシア研究会で発表した。なおウランバートルではモンゴル国に住むカザフ・ディアスポラすなわち体制変化以降カザフスタンに移住し、戻ってきた 1 家族の暮らしの変化について聞き取りをおこなった。

#### (2) 平成 20 年度

海外調査を次年度以降に繰り越し、文献研究、これまでに収集した資料、とくに写真と映像資料の重点的に分析した。各活動について以下に述べる。

4-6 月には文化人類学会での 2 つの発表準備をおこなった。モンゴル国および中国のモンゴル人による銀製品をめぐる観念と利用実践について口頭発表するとともに、民族誌映像「モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり」を製作、発表した。7-2 月には京都大学地域研究統合情報センター共同利用プロジェクト構想委員会予算により、東アジア地域を研究対象とする多分野の専門家 13 名からなるモノ研究の共同研究会組織、運営し、3 回の研究集会を開催した。本活動はモノ研究に関する人的ネットワーク構築の礎となった。2 月には個人発表を論文にまとめ、京都大学 GCOE プログラムのワーキングペーパーとして発表した。

また昨年度に引き続き、乳利用に焦点をあててユーラシア地域の多様性と共通性を解明する科研共同研究（代表者、平田昌弘）の連携研究者として、当該地域の牧畜の特徴を比較文明的な視点から多分野の専門家とともに検討してきた。本グループは、乳加工

プロセスの空間分布と時間的連続を座標とする公開データベースを構築中である。

これまでの研究成果を総括し、『現代モンゴル遊牧民の民族誌』として発表した。人類学分野内部での流通を念頭において執筆してきた論文を、多様な分野の広範な読者を想定して再検討する作業をとおして、モンゴルという地域と牧畜という生業の特性について得た新たな知見を盛り込むことができた。また研究成果の公開における写真資料利用の重要性を痛感し、映像・写真資料を徹底的に整理した。

### (3)平成 21 年度

4月に札幌の七宝焼き職人のもとで銀とガラスの性質と扱い方を参与観察した。5月に交通事故に遭い行動が不自由になったため7月まで休養した。8月から徐々に文献研究を開始した。日本の伝統産業としての七宝焼き生産の中心地である京都での原料供給、生産、流通と地域産業ネットワークのなかでの位置づけ等について文献を収集し、内容を分析、整理した。22年1月には、銀をはじめとする貴金属がそれぞれの性質に応じて身体の状態や人の運勢全体に作用するというモンゴルの信念について考察を深めるため、現代医療研究会に参加して、銀をはじめとする貴金属がモノの象徴的な力が身体におよぼす超自然的な力に関する資料を収集した。2月には畜産学の視点による家畜研究および地域に埋め込まれた家畜研究の最前線を把握するため、帯広畜産大学で研究打合せをおこなうとともに同大 GCOE 主催のシンポジウムに参加した。3月には、グローバル経済の中心である東京における伝統工芸のあり方についてフィールドワークをおこなった。とくにジェンダーと血縁関係に注目し、技術の継承にかかわる価値観とその変化について資料を収集した。

### 平成 22 年度

モノの利用と継承のあり方を包括的に調査研究するために、東アジア・中央アジアでお金に代わる機能を果たしてきた銀製品に加えて、生活に密着した財である、モンゴルの移動式住居「ゲル」の壁フェルトを取り上げた。

銀製品については、メキシコ銀山の調査を通して、モンゴルでは既製品や新品よりもすでにもっている銀製品を再加工して利用し続けることが選好されている点が際立った。世界でもっとも産出量の多い南米銀山のひとつであるメキシコ銀山周辺では、欧米日本向け意匠の新しい銀製品が今日も生産され続けていた。一方モンゴルでは、牧民は自分が所有している銀製品が摩耗すると、鍛冶師を頼んで加工させることで別の物に変えて引き続き身につけている。この理由として第一に、牧民の中には先祖代々伝わる銀製品の純度の高さに対する信念がある。第二に、銀製品が過去の人やできごとの記憶のよりどころとなっている。

フェルトについては、社会主義期モンゴルではフェルトをはじめとする手工芸品の自作が家内制手工業とされ、国内の工業発展を妨げるものとして禁止されて国家の統制下にある職人集団や工場の生産物の購入が奨励された。国家の体制変化に伴いフォーマルな手工芸セクターが機能しなくなり、人びとは再びフェルト等を作るようになった。壁フェルトは畳三畳分と巨大で厚さも4cmほどあり、その製作には西洋的工芸技術の観点から高い技術が必要である。モンゴル人は「母フェルト」という未完成フェルトを台にし、その上に羊毛を置いて新しいフェルトを作る。私はモンゴルの方法を実際に試し、その技術的な合理性と労働力の組織や母フェルトの調達に関するモンゴル社会の特徴について検討した。

### 4. 研究成果

初年度に社会主義／ポスト社会主義の時代とその地域的・文化的な多様性と普遍性を探る試みの第一歩となるフィールドワークをおこなった。二年目には、(a)物質文化に焦点をあてたポスト社会主義ユーラシア牧畜諸地域の多様性と普遍性の解明、(b)領域横断的な研究ネットワークの構築と研究資料の共有化への始動、(c)モンゴル牧畜地域の動態に関する民族誌的研究の総括と成果公開、ができた。

三年目には、個別の社会における人びととモノとの関係の変化を探るため、モノに対する認識や行為に関するジェンダー、文化、国家間の相違に関する文献研究をおこなった。

ポスト社会主義社会におけるモノの生産、利用のあり方を相対化するために、ユーラシアにおける考古学の成果を博物館収蔵資料と文献で把握するとともに、現代日本の物づくりの現場をフィールドワークすることで伝統的な技術の継承と革新について考察した。最終年度には、モンゴル国をはじめとする移行期ユーラシア地域における社会主義／ポスト社会主義の時代を捉え直すことをとおして、ポスト社会主義諸地域の地域的・文化的な多様性と普遍性を解明することを目指し、方法としてモノの利用と継承のあり方、具体的には東アジア・中央アジアでお金に代わる機能を果たしてきた銀製品に加えて、モンゴルの移動式住居「ゲル」の壁という生活に密着した必要不可欠な道具である巨大フェルトに焦点を当てた。

その結果、モノの消費をめぐる記憶という付加価値がつくことがわかった。生産技術については、技術は道具でなく身体技法として伝わる部分が多であり、社会主義期にも身体技法が伝わる余地があったことがわかった。今後の課題としてポスト社会主義地域の多様性の研究が残された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

①風戸真理、モンゴル牧畜社会における銀製品—その経済的な価値と文化的な価値、Kyoto Working Papers on Area Studies, No. 87, JSPS Global COE Program Series 85 In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa, 2009、査読なし

②風戸真理、モンゴル牧畜社会における銀製品、生態人類学会ニュースレター、13: 5-9、2008、査読なし

③風戸真理、世界のくらしと文化—モンゴル国(3) 異文化としての日本—モンゴル遊牧民の視点から、人権と部落問題、781: 60-65、2008、査読なし

④風戸真理、世界のくらしと文化—モンゴル国(2) モンゴル遊牧民の自然観—自然に対する畏怖とナーダム、人権と部落問題、780: 66-71、2008、査読なし

⑤風戸真理、世界のくらしと文化—モンゴル国(1) 見えない差異—モンゴルの言語とモンゴル人の名前から、人権と部落問題、779: 60-66、2008、査読なし

⑥平田昌弘、Aibibula Yimamu、Tursunay Leyim、安沙舟、朱逆忠、花田正明、岡本明治、大久保正彦、風戸真理、本江昭夫、中国新疆ウイグル自治区昌吉市阿什里合薩克族郷における定住化政策と牧畜形態の変遷 (資料・報告)、沙漠研究、17(3): 123-132、2008、査読なし

[学会発表] (計 5 件)

①風戸真理、モノの終わりと再生—民族誌映像「モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり」をめぐる、京都大学地域研究統合情報センター共同利用プロジェクト構想委員会「モノをめぐる記憶と表象の生成と変容—近代性の脱構築の観点から、2009年2月1日、東北大学・東北アジア研究センター

②風戸真理、モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり (映像発表)、文化人類学会第42回大会、2008年6月1日、京都大学

③風戸真理、モンゴル牧畜社会における銀製品 (口頭発表)、文化人類学会第42回大会、2008年5月31日、京都大学

④ KAZATO, M.、WOMEN'S PROPERTY IN MONGOLIAN PASTORAL SOCIETY: VALUE OF SILVER GOODS IN RURAL MONGOLIA. The 16th Annual IAFPE Conference on Feminist Economics, in Bangkok, Thailand, June 29-July 1, 2007

⑤ KAZATO, M.、"Reproductive Property" or "Immortal Property"?: Livestock And Silver Goods In Mongolian Pastoral Society. The 6<sup>th</sup> Hawaii International Conference on Social Sciences, in Honolulu, Hawaii, May 29-June 3, 2007.

〔図書〕（計 1 件）

風戸真理、現代モンゴル遊牧民の民族誌、世界思想社：京都、pp. 335、2009

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

風戸 真理 (KAZATO MARI)

京都大学・地域研究統合情報センター

研究者番号：19529002

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：